

冬のイベント

もちつき大会

12月2日(日)午前10時30分～11時30分
地元大柏地区の伝統的なもちつき「バタつき」を披露します。臼と杵による親子体験もあり。

ZOOワンポイントガイド フライングケージのトリたち

12月9日(日)午後1時30分から
冬はトリたちが色鮮やかに季節。その魅力をたっぷりとお伝えします。

もみじ山一般公開

12月9日(日)まで(午前9時～午後4時、月曜日及び雨天時休み)

利用案内

場 大町284
問 ☎338-1960
開園時間:午前9時30分～午後4時30分(入園は午後4時まで)
休園日:月曜日(祝日の場合は翌日)
入園料:大人420円、小・中学生100円、小学生未満無料
年間バスポート:大人1,200円、小・中学生300円

開園25周年記念
誕生月の入園料無料
(平成25年3月まで)

交通

- JR本八幡駅北口からバス
 - ・動物園行き(土・日曜日、祝日のみ) 終点
 - ・市川営業所行き「大野町4丁目」下車で徒歩10分
 - ・大町駅行き「駒形」下車で徒歩10分(大町駅経由市川営業所行きを含む)
 - JR市川大野駅からコミュニティバス
 - ・市川大野→動物園
9:36→9:51、12:00→12:15、14:24→14:39
 - ・動物園→市川大野
10:01→10:16、12:25→12:40、14:49→15:04、17:23→17:38
- ※有料駐車場あり

休園日恒例、サル山の大掃除

休園日の月曜日は恒例のサル山の大掃除をします。担当者がデッキブラシの柄でサル山を「ゴンゴン」とたたくと30秒位でサル達は一斉に部屋へ移動。静かになったサル山で、ホースから水をじゃぶじゃぶと流し、1週間たった汚れを綺麗にしています。標高8メートルのサル山にもひよひよと長靴で登る担当者。お客様の視線から見ると分かりづらいですが、実際はかなりの高さがあるんですよ。



掃除をしながら排泄物を観察し、動物の体調を確認

来園者に聞きました 動物と身近に触れ合えるのが魅力
年間バスポートを持っているので、月に1回～2回くらい来ます。今日は友達親子と来ました。ふれあい動物園など、動物と身近に触れ合えるところが魅力です。午後には予定が無い時など、気軽に子どもと遊びに来られるところが気に入っています。



▲自分も子どもの時に遊びに来ていたという藤平さん親子(右)

飼育員に聞きました 毎日が新鮮な驚きの連続
開園準備の時は公園緑地課に配属されていました。最初の仕事は動物飼育ではなく、これから建設される獣舎の図面をチェックすることでした。開園してから25年、いろんなことがありました。一日として同じ日はなく、日々新鮮な毎日です。動物園では新しい命が誕生する一方で亡くなっていく動物もいます。そういう現実も含めて、来園される方に命の温もり、大切さを伝えていきたいです。



▲開園準備でレッサーパンダを中国まで受け取りに行った飼育員。現在はヤマアラシの担当。

冬毛に変身

夏と冬でがらりと見た目が変わる動物を紹介します。



ご存知、ウール100パーセント!家畜化されたヒツジは季節で毛が生え変わらず、毛を刈ってあげないと伸び続けてしまいます。動物園では、5～6月頃、毛刈りをしますが、その時ユズは観念したように、刈り終わるまで、おとなしくしています。



毛だけではなく、夏はスッキリと痩せ型に、冬は体に脂肪をたくわえてコロコロとしています。



オスは冬前に綺麗な飾り羽が生えて、写真(右)のような華やかな姿になります。夏にはメスと変わらない羽になり、ほとんど区別がつかなくなります。オスのクチバシは赤っぽく、メスは黒っぽいのでそこで見分けられます。



夏は毛が短く、名前の由来でもある体のぶちのテンテン模様がハッキリします。冬は長めの毛でモコモコして、テンテン模様は薄くなります。

休園日って何してるの?

休園日は誰も居ないと思いませんか。いえいえ、そんなことはありません。動物たちは生きています。私達と同じく、毎日のごはんが必要です。お客さんが居ないからこそできる仕事もいっぱい。休園日の動物園に潜入です。

サル山のエサやり

朝と夕方、1日2回のごはんタイム。さつまいもとリンゴが大好物で、固形飼料のペレットも喜びます。1日の消費量はリンゴ5キロ、サツマイモ5キロ、キャベツ3キロなど、バケツ3杯分の野菜を準備します。



▲サルのエサ



▲サル舎のごはんづくり

ごはんづくり

休みでも大切なのが、ごはんづくりです。季節や天候、動物の体調などをみて、担当者がそれぞれ工夫します。



園内に自生している竹笹は、レッサーパンダのごはんとります。週に2回は竹を伐採し、萎れないように水につけて保管します。



▲遊ぶの大好き、人間も大好きのコツメカワウソは、お客さんにも興味津々。

冬の動物って
おもしろい!

寒くても水遊びだけは
やめられない
コツメカワウソ

ここに注目! 流し台は、下水道のパイプを利用して作りました。始めはなかなか遊んでくれなかったのですが、修繕担当者2人で工夫して今の形になりました。コツメカワウソは狭いところで遊ぶのが大好きです。芸を仕込んで見せるのではなく、彼らの特性を生かした行動で、お客さんにも動物にも喜んでもらえるよう、日々考えています。



▶大きなパイプで流し台の増設を計画中の飼育担当者

インドや東南アジアなど熱帯地方に生息するコツメカワウソ。本来、寒さは苦手...なはずですが、真冬でもやめられないのが「水遊び」です。小屋の中にあるヒーターで冷えた体を温めながら、果敢に水の中へ飛び込みます。好奇心旺盛で遊ぶのが大好きな彼らは、飼育担当者が作ってくれた流し台が大のお気に入り。「びよーん」とのびて台をすべる姿はまるで「流しそめん」ならぬ「流しかワウソ」です。



▲雪が降る中、冷えたら温め、温まったら遊ぶを繰り返す。

モコモコ毛皮で 寒さもへっちゃら レッサーパンダ



▲積もった雪の上を嬉しそうに探検中

標高1,500～4,000メートルの高地に生息するレッサーパンダは、モコモコの毛皮に包まれて寒さに強い動物です。雪が降れば大はしゃぎ。愛くるしいしぐさと表情で動物園のアイドルですが、爪はかなり鋭く、飼育担当者のズボンを引き裂くことも。

トレードマークは短いくちばし シュバシコウ(ヨーロッパコウノトリ)のコウちゃん



▲子育て奮闘中のコウちゃん(2008年当時)

コウちゃん(27歳、メス)は、来園した当初慣れないケージでクチバシを挟んで折ってしまい、5年間動物病院でさし餌獣医が給餌をしました。くちばしの長さがバラバラだったため、短くなった方に合わせて切り落とし、仲間の元復帰。その後ペアラングをしてくくちゃんの子宝に恵まれました。短くちばしがトレードマークのコウちゃん、今も元気に子どもたちと過しています。

はちみつ生姜が 冬越しの秘訣 オランウータン



▲バツクの牛乳を器用に飲むイーバン(オス・24歳)。他にも食パンやみかんが冬の定番食。

熱帯地方に生息するオランウータンは寒さが苦手。人間と近く、インフルエンザなど同じ病気に罹ってしまうため、冬は体調を崩さないよう、飼育担当者は色々な工夫をします。中でも、はちみつ生姜をお湯で割ったものを与えたところ、大喜びで欲しがるように。乾燥も大敵なため、加湿器も冬の必需品です。

いつも身近に
命の温もりを感じられる場所
市川市動植物園
昭和62年8月21日に開園し、今年25周年を迎えた市川市動植物園。そこは、四半世紀ものあいだ、動物たちを巡る誕生と成長、そして別れのドラマが生まれ